

平成31年度 事務事業振返りシート (平成30年度 実施事業の振返り)

1. 基本情報					
事務事業コード	0110060804020301				
事務事業名	図書館運営事業				
担当部	教育部				
担当課	国分図書館				
政策名	04 はぐくみ(社会を生き抜く力と生涯を通じて学びあう力を育むまちづくり)				
担当課長	鈴木 順一				
施策名	02 多様な学びを支援する社会教育の充実				
グループ	管理図書グループ				
基本事業名	03 自ら学び、高め合う体制づくりと学習環境の充実				
内線番号	3052				
予算科目	会計	一般会計	事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ	
	款	10 教育費		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 S 33 年度~)	
	項	06 社会教育費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度(~)	
	目	08 図書館費		根拠法令・条例等	図書館法、霧島市立図書館の設置及び管理に関する条例、同条例施行規則
評価区分	標準評価	評価対象	2次評価	関連計画	霧島市教育振興基本計画、霧島市子ども読書活動推進計画

2. 事務事業の概要・目的・指標 <Do>

(1) 事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細を記述)

・市内に国分・隼人図書館、溝辺・横川・牧園・霧島・福山図書室の2図書館、5図書室が設置されている。公共図書館としての役割を果たすために多様な資料の整備に努め、幅広い年齢層の方たちに応じた資料の提供を行う。
 また、未所蔵資料に対する購入希望状況、予約の状況等や図書の出版状況(ベストセラーの把握、新聞等の書籍の紹介)に目を向けながら、計画的な購入・相互貸借等の活用で利用者の要求に対応し、図書資料の収集、整理、提供等を行う。さらに、図書館施設の維持管理を行う。
 ・貸出冊数…5冊以内
 ・貸出期間…15日以内
 ・貸出対象者…市内に住んでいる方、市内の学校に通学している方、市内の職場に通勤している方

① 活動指標 (事務事業の活動量)	単位	29年度	30年度		31年度	2020年度
		(実績)	(見込)	(実績)	(見込)	(見込)
ア 入館者数	人	219,300	236,000	208,414	244,500	244,500
イ 蔵書冊数	冊	424,449	430,000	429,970	436,000	441,000
ウ						

(2) 事務事業の目的

② 対象 (誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標 (左記②対象の大きさを表す指標)	単位	29年度 (実績)	30年度		31年度	2020年度
				(見込)	(実績)	(見込)	(見込)
ア 市民	人口	人	125,338	125,969	124,785	126,230	126,490
イ							
ウ							

④ 意図 (②対象をどうしたいのか)	⑤ 成果指標 (左記④意図の達成度を表す指標)	単位	29年度 (実績)	30年度		31年度	2020年度
				(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
ア 欲しい情報を得られる	貸出者数(移動図書館を除く)	人	98,610	101,000	97,519	103,500	104,000
イ	貸出冊数(移動図書館を除く)	冊	338,564	346,000	332,947	353,500	354,000
ウ							

(3) 総合計画との関係

⑥ 基本事業の目的、取組方針(総合計画より)

多様化・高度化するニーズに対応し、関係機関と連携した学習機会や学習内容の充実に努めるとともに、市民が、必要な情報を容易に入手できるよう、広報誌や図書館システムなどを活用した情報提供を行います。
 また、社会教育施設の改修やメディアセンター等の機器の更新を通じ、市民が利用しやすい学習環境の整備に努めるとともに、社会教育における学びを通して、地域を知り、課題に気づくことで、その解決に向けた活動に繋がる場や機会の充実に努めます。

3. 事務事業の環境変化・市民意見等
 (法改正や事業を取り巻く環境変化、市民や議会などからの意見等)

インターネットなどのメディアを通じ情報の取得が可能となっており、個人一人ひとりの情報ニーズが多様化している。活字離れが進んでいると言われるが、根強い読書、書籍ファンも多い。
 平成26年12月市議会常任委員会において、市立図書館の指定管理者制度導入について、検討を進めるべきではないかの意見があった。
 午後9時までの開館を喜ぶ声が多数聞かれた。

4. 事業費の推移		単位	29年度 (決算)	30年度		31年度	2020年度
				(予算)	(決算)	(予算)	(計画)
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	51	73	45	73
		一般財源	千円	50,521	58,086	57,034	59,802
		事業費	千円	50,572	58,159	57,079	59,875

5. 平成30年度の実績及び成果

(1) 平成30年度の実績(取組)	(2) 平成30年度の成果
<取組内容を数値等により具体的に記載>	<左記の実績(取組)による成果を記載>
<ul style="list-style-type: none"> 各図書館(室)において、蔵書構成のバランスをとりながら図書等の収集、整理、提供等を行った。 県立図書館、県内の公共図書館及び大学図書館等のインターネットによる蔵書検索を行い、貸出の充実や公共図書館相互貸借の推進を図った。 学校図書館、読書ボランティアグループとの連携や図書館だより等を発行し、図書館をより身近に感じてもらえるような活動を行った。 隼人図書館のトイレ改修工事を行い、多目的化を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 蔵書構成のバランスのとれた一般図書、児童図書等の収集、整理、提供等ができた。 公共図書館相互貸借により、利用者が希望する本の貸出しができた。 学校図書館、読書ボランティアグループとの連携による各種事業及び図書館だより等による広報活動を実施することにより、読書に対する興味の醸成及び読書活動の推進が図られ、身近な図書館づくりを進めることができた。 隼人図書館トイレの多目的化により、来館者が利用しやすい環境作りを行った。

事務事業 コード	0110060804020301	事務 事業名	図書館運営事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

6. 振り返り <SEE(Check)>		理由
A 目的 妥当性	① この事務事業の目的は、基本事業の意図に結びついていますか？ <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 間接的に結びついている <input type="checkbox"/> 結びついていない	市民が、欲しい情報を得られることにより知識を深め、学習しやすい環境が整うことに結びついている。
	② ・この事業をなぜ市が行わなければならないのですか？ ・税金を投入して達成する目的ですか？ <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	図書館は、市民の教養と文化の向上を図るための学習支援を行う機関である。地域の情報の拠点、読書施設、図書資料等各種情報の保存機関、生涯学習の支援施設等として市が実施すべき事業である。
B 有効性	③ 成果が向上する余地(可能性)はありませんか？ <input type="checkbox"/> 向上する余地はかなりある <input checked="" type="checkbox"/> 向上する余地はある程度ある <input type="checkbox"/> 向上する余地はほとんどない	図書のリクエスト等を受け市民の要求を把握し、それに伴う資料の購入、他公共図書館との相互貸借を行ったり、ホームページ・広報誌・図書館だより等を活用して図書の紹介や行事案内を行うことで、成果が向上する余地はある程度ある。
	④ 廃止・休止の影響はありませんか？ <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がほとんどない	市民が、図書資料等を利用して情報等を得られなくなり、教養と文化の向上に支障が出てくる恐れがあるので影響がある。
	⑤ 類似の目的(対象・意図)又は形態(イベントや啓発等)を持つ他の事務事業はありませんか？ <input checked="" type="checkbox"/> 類似の事業はない <input type="checkbox"/> 類似の事業はあるが、統合又は連携できない <input type="checkbox"/> 類似の事業があり、統合又は連携できる	類似事業がある場合の事務事業名等
	⑥ ・事務事業の手段(やり方)を工夫することで、事業費を削減できませんか？ ・補助金など、交付先に働きかけて、市の負担を削減できませんか？ <input checked="" type="checkbox"/> 削減できない <input type="checkbox"/> 削減できる	市民の多種多様な要望に応え運営を維持していくためには、削減は困難である。
C 効率性	⑦ ・事務事業の手段(やり方)を工夫することで、人件費(延べ業務時間)を削減できませんか？ ・職員以外の対応や委託により人件費を削減できませんか？ <input checked="" type="checkbox"/> 削減できない <input type="checkbox"/> 削減できる	指定管理者制度の導入を検討したが、時期尚早との判断により当面は直営で運営するの方針を決定したため、人件費を削減することができない。
	⑧ 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていませんか？ また、受益者負担の公平性が確保されていますか？ <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	図書館は全ての市民が利用可能であるので公平・公正である。また、図書館法第17条の規定により入館料その他図書資料の利用については無償となっている。

7. 1次評価結果 <PLAN(Action - Plan)> (組織決定)		【参考】前年度の改革改善の方向性 継続・やり方改善					
(1) 2020年度の事務事業の改革改善の方向性	継続	やり方改善	事業拡充	連携	統合	休止	廃止
	○	○					
(2) 平成31年度の改革改善の内容(取り組むべき課題)	利用者の図書に対するニーズ(リクエスト)を図書の購入へと反映させたり、他の公共図書館との相互貸借を進めることによって、利用者の学習意欲の向上を図る。 またテーマに沿った図書コーナーを配置するなど、利用者(子どもを含む)が興味を持つような環境を創出するとともに、ホームページや広報誌、図書館だより等を活用して図書館環境の周知を図る。 来館者が安心、安全、快適に利用することができるよう、単人図書館の入口に自動ドアを設置する。						
(3) 2020年度の方向性(具体的な取組)	利用者のニーズに沿って、蔵書構成のバランスをとりながら図書等の収集、整理、提供等を行う。 利用者に分かり易い内容となるよう、ホームページや広報誌、図書館だより等の改善と、積極的な活用により図書館の周知を図る。 蛍光灯の紫外線による図書の劣化や発熱による冷房の阻害、電気量の削減を図るため、年次的に照明のLED化を進める。						

8. 2次評価結果 (担当部長評価)		評価者	部局	教育部	中馬 吉和		
(1) 事務事業の改革改善方向性	継続	やり方改善	事業拡充	連携	統合	休止	廃止
	○	○					
(2) 総評	魅力ある図書館として、蔵書についての満足度は高いようだが、利用者のニーズは多様化しており、その中で図書館の利用者増・貸出冊数増につながる取組を検討する必要がある。 また利便性の高い図書館として、多目的トイレや自動ドアの設置を進めており、今後も利用者の快適性向上や図書等の閲覧環境の改善に努める。 図書館の学習室については学生の利用が多いことから、本に興味を持つよう工夫することによって、学習室の利用だけに留まらない、身近な図書館づくりを目指す。						

1. 基本情報							
事務事業コード	0110060804020302	事務事業名	移動図書館運営事業	担当部	教育部		
				担当課	国分図書館		
政策名	04	はぐくみ(社会を生き抜く力と生涯を通じて学びあう力を育むまちづくり)		担当課長	鈴木 順一		
施策名	02	多様な学びを支援する社会教育の充実		グループ	管理図書グループ		
基本事業名	03	自ら学び、高め合う体制づくりと学習環境の充実		内線番号	3052		
予算科目	会計	一般会計		事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 S 43 年度~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度(~)		
	款	10 教育費			根拠法令・条例等	図書館法、霧島市立図書館の設置及び管理に関する条例	
	項	06 社会教育費					
	目	08 図書館費					
評価区分	標準評価	評価対象	1次評価	関連計画	霧島市教育振興基本計画、霧島市子ども読書活動推進計画		

2. 事務事業の概要・目的・指標 <Do>

(1) 事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細を記述)

図書館から遠隔地にある地域、住宅、団地、小学校等に移動図書館車での本の巡回サービスを実施し、市民の教養と文化の向上を図るための学習環境づくりを支援する。
 ・国分図書館移動図書館車「しろやま号、しろやま号小型」、単人図書館移動図書館車「すずかけ号」
 ・巡回箇所88箇所 ・配本所28箇所
 ・貸出冊数 10冊以内 ・貸出期間 1ヶ月以内(次回巡回日まで)

① 活動指標(事務事業の活動量)		単位	29年度 (実績)	30年度 (見込)	31年度 (実績)	31年度 (見込)	2020年度 (見込)
ア	巡回箇所	箇所	86	89	88	89	90
イ							
ウ							

(2) 事務事業の目的

② 対象 (誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標 (左記②対象の大きさを表す指標)	単位	29年度 (実績)	30年度 (見込)	31年度 (実績)	31年度 (見込)	2020年度 (見込)
ア 市民	人口	人	125,338	125,969	124,785	126,230	126,490
イ							
ウ							

④ 意図 (②対象をどうしたいのか)	⑤ 成果指標 (左記④意図の達成度を表す指標)	単位	29年度 (実績)	30年度 (目標)	31年度 (実績)	31年度 (目標)	2020年度 (目標)
ア 欲しい情報を得られる	貸出者数(移動図書館分のみ)	人	7,769	10,400	7,713	10,400	10,400
イ	貸出冊数(移動図書館分のみ)	冊	47,644	50,000	52,597	50,000	55,000
ウ							

(3) 総合計画との関係

⑥ 基本事業の目的、取組方針(総合計画より)

多様化・高度化するニーズに対応し、関係機関と連携した学習機会や学習内容の充実に努めるとともに、市民が、必要な情報を容易に入手できるよう、広報誌や図書館システムなどを活用した情報提供を行います。
 また、社会教育施設の改修やメディアセンター等の機器の更新を通じ、市民が利用しやすい学習環境の整備に努めるとともに、社会教育における学びを通して、地域を知り、課題に気づくことで、その解決に向けた活動に繋がる場や機会の充実に努めます。

3. 事務事業の環境変化・市民意見等 (法改正や事業を取り巻く環境変化、市民や議会などからの意見等)		4. 事業費の推移		単位	29年度 (決算)	30年度 (予算)	31年度 (決算)	31年度 (予算)	2020年度 (計画)	
昭和33年に市民の学習環境を充実させるため国分市立図書館が設置され、その後、昭和43年に移動図書館車を購入し、巡回が始まった。インターネットなどの新たなメディアを通じ情報の取得が可能となってきており、個人一人ひとりの情報ニーズが多様化している。活字離れが進んでいると言われるが、根強い読書、書籍ファンも多い。合併を機に巡回箇所が増えており、小学校では月1回の巡回を児童たちが楽しみに待っている。		事業費 投入量	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
				県支出金	千円	0	0	0	0	0
				地方債	千円	0	0	0	0	0
				その他	千円	0	0	0	0	0
				一般財源	千円	3,793	3,969	4,080	3,961	4,089
				事業費	千円	3,793	3,969	4,080	3,961	4,089

5. 平成30年度の実績及び成果

(1) 平成30年度の実績(取組) <取組内容を数値等により具体的に記載>	(2) 平成30年度の成果 <左記の実績(取組)による成果を記載>
<ul style="list-style-type: none"> 巡回箇所の見直しを行い、移動図書館の機能を活かし、利用者の利便性向上に努めた。巡回は、小規模校を中心に市内全体で実施した。 巡回箇所88箇所(国分しろやま号:56箇所、単人すずかけ号:32箇所) 単人において巡回箇所の見直しを行い、2箇所の増とした。 移動図書館用の本の充実整備を進めた。 利用者の予約・リクエストを重視し、より市民が求める資料を提供した。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者からのリクエストにも応じるなど、知りたい情報・求めている本の提供を行い、利用者の利便性向上ならびに本の充実を図った。 移動図書館車の整備を行うことにより、計画的な運行を行うことができた。 学校との連携を図り、学習にそった本の提供を行った。 貸出者数は減少したが、貸出冊数については伸びており、読書の推進につながった。

事務事業コード	0110060804020302	事務事業名	移動図書館運営事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

6. 振返り <SEE(Check)>		理由
A 目的妥当性	① この事務事業の目的は、基本事業の意図に結びついていますか？ <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 間接的に結びついている <input type="checkbox"/> 結びついていない	本の購入整備や巡回箇所の見直しを進めることにより、市民が求める情報や知識を得ることが出来るため、学習しやすい環境づくりの支援が整うことに結び付いている。
	② ・この事業をなぜ市が行わなければならないのですか？ ・税金を投入して達成する目的ですか？ <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	図書館は、市民の教養と文化の向上を図るための学習支援を行う機関であり、移動図書館はその一部である。市民への生涯学習支援が「いつでもどこでも」得られる手段として、その機能を十分に発揮できるため、市が実施すべき事業である。
B 有効性	③ 成果が向上する余地(可能性)はありませんか？ <input type="checkbox"/> 向上する余地はかなりある <input checked="" type="checkbox"/> 向上する余地はある程度ある <input type="checkbox"/> 向上する余地はほとんどない	現在、市内88箇所を巡回している。今後も要望等を考慮しながら巡回場所の見直しを進め、新たな巡回場所の周知・定着を図ることにより市民の利便性が向上するため、成果の向上余地はあるものとする。
	④ 廃止・休止の影響はありませんか？ <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がほとんどない	市民の学習支援を行う機関として、また図書館から遠隔地の方の利用を考えると、本を利用している情報等を得られなくなり、教養と文化の向上に支障が出てくる恐れがあるため影響がある。
	⑤ 類似の目的(対象・意図)又は形態(イベントや啓発等)を持つ他の事務事業はありませんか？ <input checked="" type="checkbox"/> 類似の事業はない <input type="checkbox"/> 類似の事業はあるが、統合又は連携できない <input type="checkbox"/> 類似の事業があり、統合又は連携できる	類似事業がある場合の事務事業名等
C 効率性	⑥ ・事務事業の手段(やり方)を工夫することで、事業費を削減できませんか？ ・補助金など、交付先に働きかけて、市の負担を削減できませんか？ <input checked="" type="checkbox"/> 削減できない <input type="checkbox"/> 削減できる	事業費のほとんどは燃料費、車両修繕費用、車検費用、運転手の人件費と移動図書館車の維持・運行のための経費である。現時点においてはこれ以上の削減余地はない。
	⑦ ・事務事業の手段(やり方)を工夫することで、人件費(延べ業務時間)を削減できませんか？ ・職員以外の対応や委託により人件費を削減できませんか？ <input checked="" type="checkbox"/> 削減できない <input type="checkbox"/> 削減できる	ただ単に本を積み込んで巡回するだけではなく、巡回先の利用者の要望や読書傾向等を加味した本の選書等を行い、学校においては児童数に応じた積載をすることが必要である。少人数で多量の移動図書館車用図書を選書、積み込み、運行等を行っており、現行の事業に要する人件費の削減は難しい。
D 公平性	⑧ 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていませんか？ また、受益者負担の公平性が確保されていますか？ <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	移動図書館もすべての市民が利用可能である。また、図書館法第17条の規定により入館料その他本の利用については無償となっているため公平性が確保されている。

7. 1次評価結果 <PLAN(Action - Plan)> (組織決定)		【参考】前年度の改革改善の方向性 < 継続・やり方改善 >					
(1) 2020年度の事務事業の改革改善の方向性	継続	やり方改善	事業拡充	連携	統合	休止	廃止
	○	○					
(2) 平成31年度の改革改善の内容(取り組むべき課題)	・移動図書館とは、「図書館の利用に困難な地域を定期的に巡回し、サービスを提供する図書館である」という定義のもと、巡回の場所・時間等を検討し、市民の身近なところで利用できるように改善し、工夫していく。 ・図書館から遠い地域の方に身近なステーションを知っていただくため、周知を図る。 ・学校と連携を密に取り、リクエストや調べ学習等に役に立つ資料を提供できるように、必要な資料の提供に取り組み、児童生徒の読書活動の支援を行なう。						
(3) 2020年度の方向性(具体的な取組)	・移動図書館の蔵書について充実を図り、広く市民に「いつでも・どこでも・だれでも」気軽に利用できるサービスを実施し、本に親しむ機会をつくっていく。 ・移動図書館の利便性を生かし、「遠くの図書館に行くことが困難な地域」に対して図書館サービスが拡大できるよう、巡回箇所の見直しに取り組む。						

8. 2次評価結果 (担当部長評価)		評価者	部局				
(1) 事務事業の改革改善方向性	継続	やり方改善	事業拡充	連携	統合	休止	廃止
(2) 総評							

1. 基本情報							
事務事業コード	0110060804020304	事務事業名	図書館読書推進事業	担当部	教育部		
				担当課	国分図書館		
政策名	04	はぐくみ(社会を生き抜く力と生涯を通じて学びあう力を育むまちづくり)		担当課長	鈴木 順一		
施策名	02	多様な学びを支援する社会教育の充実		グループ	管理図書グループ		
基本事業名	03	自ら学び、高め合う体制づくりと学習環境の充実		内線番号	3052		
予算科目	会計	一般会計		事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 S 33 年度~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度(~)		
	款	10 教育費			根拠法令・条例等	図書館法第3条、子どもの読書活動の推進に関する法律等	
	項	06 社会教育費					
	目	08 図書館費					
評価区分	標準評価	評価対象	1次評価	関連計画	霧島市教育振興基本計画、霧島市子ども読書活動推進計画		

2. 事務事業の概要・目的・指標 <Do>

(1) 事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細を記述)

多様な読書行事等への参加を通して読書への興味、様々な学習への興味を喚起することにより、学習活動の推進を図る。
 【開催行事等】
 ブックスタート、子ども読書の日、おはなし会、おはなしの部屋、夏休み特別講座(植物採集教室、昆虫標本教室、からくり絵本教室、植物名付け会、えほんとわらべうた、かがくあそび)、緑陰読書、おはなし王国等読書イベント、図書館だより等の作成・配布等

① 活動指標 (事務事業の活動量)		単位	29年度 (実績)	30年度 (見込)	31年度 (実績)	31年度 (見込)	2020年度 (見込)
ア	行事の開催回数	回	166	180	172	180	180
イ							
ウ							

(2) 事務事業の目的

② 対象 (誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標 (左記②対象の大きさを表す指標)	単位	29年度 (実績)	30年度 (見込)	31年度 (実績)	31年度 (見込)	2020年度 (見込)
ア 市民	人口	人	125,338	125,969	124,785	126,230	126,490
イ							
ウ							

④ 意図 (②対象をどうしたいのか)	⑤ 成果指標 (左記④意図の達成度を表す指標)	単位	29年度 (実績)	30年度 (目標)	31年度 (実績)	31年度 (目標)	2020年度 (目標)
ア 読書に興味を持ってもらう	読書に興味を持った参加者数	人	6,499	7,000	7,427	7,600	7,800
イ							
ウ							

(3) 総合計画との関係

⑥ 基本事業の目的、取組方針(総合計画より)

多様化・高度化するニーズに対応し、関係機関と連携した学習機会や学習内容の充実に努めるとともに、市民が、必要な情報を容易に入手できるよう、広報誌や図書館システムなどを活用した情報提供を行います。
 また、社会教育施設の改修やメディアセンター等の機器の更新を通じ、市民が利用しやすい学習環境の整備に努めるとともに、社会教育における学びを通して、地域を知り、課題に気づくことで、その解決に向けた活動に繋がる場や機会の充実に努めます。

3. 事務事業の環境変化・市民意見等
 (法改正や事業を取り巻く環境変化、市民や議会などからの意見等)

多くの市民に読書に興味をもってもらい、学習活動を推進するため、多様な読書行事を実施している。紙媒体の情報よりインターネットなどの新たなメディアを通じた情報の取得が重要視されてきているが、親子読書活動など本を通じた心のふれあいが、現代社会の中で見直されてきている。ブックスタートの取組は、保護者から好評を得ている。
 平成22年第2回市議会定例会で、セカンドブック事業の実施を検討してほしいとの意見があった。

4. 事業費の推移		単位	29年度 (決算)	30年度 (予算)	31年度 (決算)	31年度 (予算)	2020年度 (計画)
事業費 投入量	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	631	654	640	611
		事業費	千円	631	654	640	611

5. 平成30年度の実績及び成果

(1) 平成30年度の実績(取組)	(2) 平成30年度の成果
<取組内容を数値等により具体的に記載> 各種読書推進行事等の開催 ・ブックスタート(12回、2,029人参加) ・おはなし会(146回、3,370人参加) ・夏休み特別講座(7回、180人参加) ・緑陰読書(4回、93人参加) ・おはなし王国等読書イベント(7回、1,848人参加) ・学校図書館、読書ボランティアグループとの連携 ・図書館だより等の発行(12回)	<左記の実績(取組)による成果を記載> ・市民(特に乳幼児、小中学生)を対象とした行事等の開催や、学校図書館・読書ボランティアとの連携による各種事業及び図書館だより等の広報活動を実施することにより、読書に対する興味・関心の醸成及び読書活動の推進が図られた。 ・新規おはなし会として、夜のおはなし会☆ぬいぐるみおとまり会(国分)、JAおはなし会(横川)、こわーい話とちよこつときもだめし(霧島)、プチおはなし会(福山)を実施し、おはなし会の参加者が増加した。 ・ブックスタートの活動により、乳幼児の保護者に乳幼児期からの読み聞かせが赤ちゃんの言葉と心を育てるためには大切なことである、との認識が浸透しつつあり、図書館利用やおはなし会の参加につながってきている。

事務事業コード	0110060804020304	事務事業名	図書館読書推進事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

6. 振り返り <SEE(Check)>		理由
A 目的妥当性	① この事務事業の目的は、基本事業の意図に結びついていますか？ <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 間接的に結びついている <input type="checkbox"/> 結びついていない	市民が読書に興味を持ってもらうことにより、自分のテーマに合った学習機会が得られることに結びついている。
	② この事業をなぜ市が行わなければならないのですか？ 税金を投入して達成する目的ですか？ <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	図書館法及び子どもの読書活動の推進に関する法律により、読書推進を自治体が行うことが求められている。
B 有効性	③ 成果が向上する余地(可能性)はありませんか？ <input type="checkbox"/> 向上する余地はかなりある <input checked="" type="checkbox"/> 向上する余地はある程度ある <input type="checkbox"/> 向上する余地はほとんどない	図書館(室)とボランティアグループ等が連携をとり、読み聞かせ、おはなし会等の活動の場を増やしたり、館内見学等の受け入れにより図書館が身近な施設と感じてもらい、おはなし会などに足を運ぶきっかけを作ることで成果の向上が期待できる。
	④ 廃止・休止の影響はありませんか？ <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がほとんどない	読書推進活動を廃止、休止した場合、読書離れが進み、教育と文化の向上に支障が出てくる恐れがあり影響がある。
	⑤ 類似の目的(対象・意図)又は形態(イベントや啓発等)を持つ他の事務事業はありませんか？ <input checked="" type="checkbox"/> 類似の事業はない <input type="checkbox"/> 類似の事業はあるが、統合又は連携できない <input type="checkbox"/> 類似の事業があり、統合又は連携できる	類似事業がある場合の事務事業名等
C 効率性	⑥ 事務事業の手段(やり方)を工夫することで、事業費を削減できませんか？ 補助金など、交付先に働きかけて、市の負担を削減できませんか？ <input checked="" type="checkbox"/> 削減できない <input type="checkbox"/> 削減できる	事業費は、各行事等の報償費、消耗品費であり、これ以上の削減は難しい。
	⑦ 事務事業の手段(やり方)を工夫することで、人件費(延べ業務時間)を削減できませんか？ 職員以外の対応や委託により人件費を削減できませんか？ <input checked="" type="checkbox"/> 削減できない <input type="checkbox"/> 削減できる	必要最低限の企画、運営業務にしか職員は携わっておらず、ほとんどがボランティアの方々の協力を得て事業を実施しているものであり、業務時間の削減余地はない状態である。
D 公平性	⑧ 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていませんか？ また、受益者負担の公平性が確保されていますか？ <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	読書推進事業の受益者は図書館の利用者、おはなし会等の参加者であるが、すべての市民を対象として呼び掛け、実施しているので、公平である。

7. 1次評価結果 <PLAN(Action - Plan)> (組織決定)		【参考】前年度の改革改善の方向性 継続・やり方改善					
(1) 2020年度の事務事業の改革改善の方向性	継続	やり方改善	事業拡充	連携	統合	休止	廃止
	○	○					
(2) 平成31年度の改革改善の内容(取り組むべき課題)	・各図書館(室)が開催している読書イベントについて、誰でも気軽に参加ができ、魅力ある内容の充実に努める。また、多くの市民に周知できるように、広報の充実に努める。						
(3) 2020年度の方向性(具体的な取組)	・赤ちゃんから大人まで、誰でも気軽に本と触れ合う機会を増やし、より多くの市民に図書館(室)に来ていただけるよう、内容の充実や行事の継続に努める。 ・ボランティアの活動や組織の充実を図るため、新たなメンバーが増えるようボランティア養成講座を開催する。						

8. 2次評価結果 (担当部長評価)		評価者	部局				
(1) 事務事業の改革改善方向性	継続	やり方改善	事業拡充	連携	統合	休止	廃止
(2) 総評							

